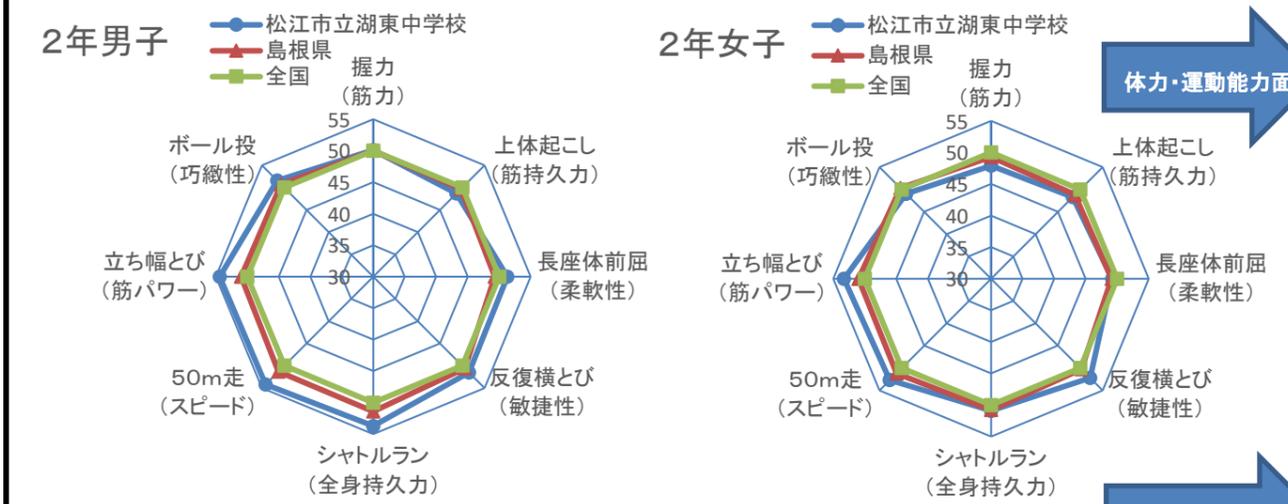
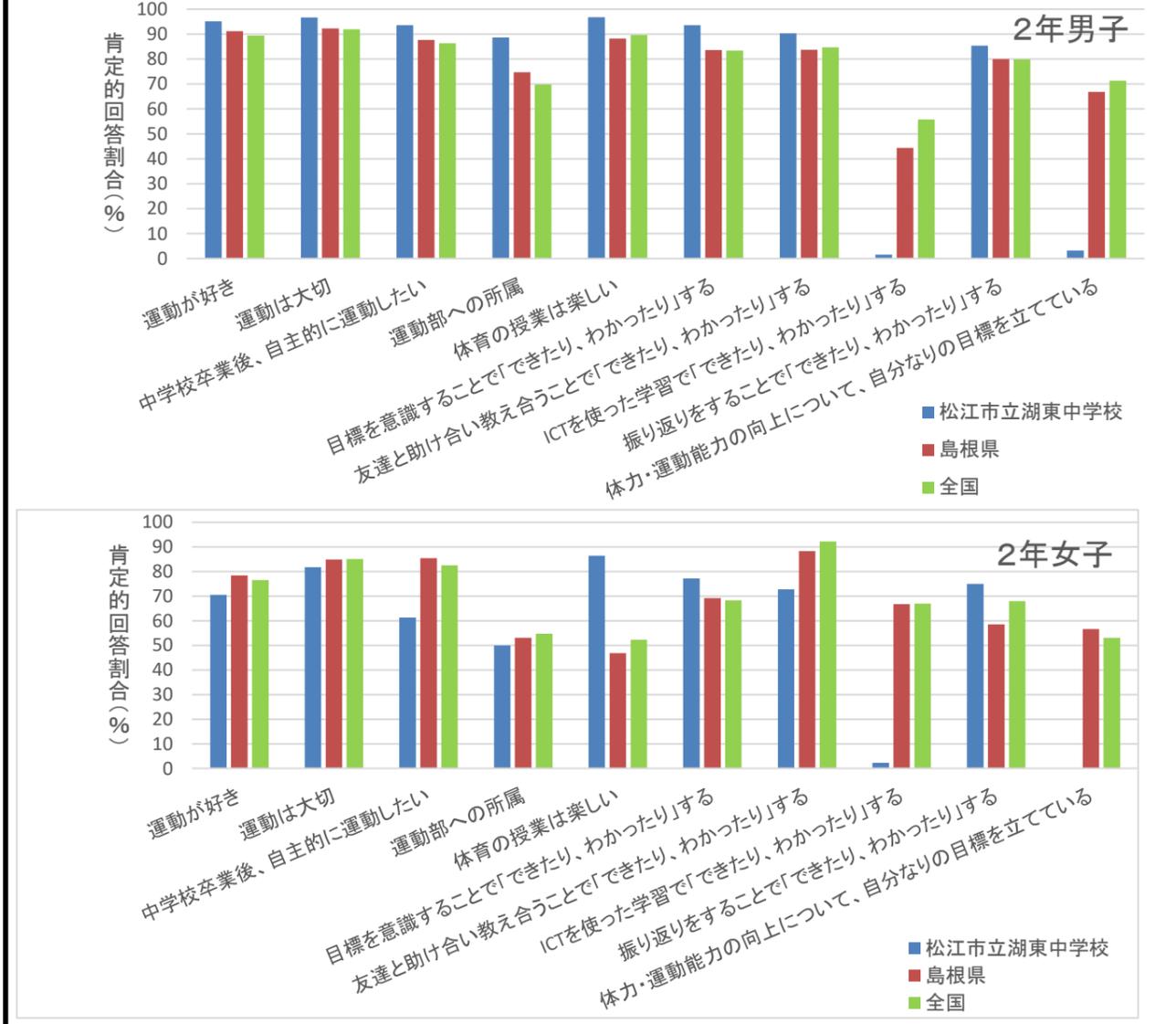


(1) 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査<意識調査>の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力(筋力)	上体起こし(筋持久力)	長座体前屈(柔軟性)	反復横とび(敏捷性)	シャトルラン(全身持久力)	50m走(スピード)	立ち幅とび(筋パワー)	ボール投(巧緻性)
男子	0.1	-1.3	1.3	1.5	3.7	4.2	4.4	1.6
女子	-2.1	-1.7	-0.8	2.2	0.9	2.7	3.3	-1.0

偏差値帯: [-5p以上] 弱み, [-5~-2p], [-2~0p], [0~2p], [2~5p], [5p以上] 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	運動は大切	中学校卒業後、自主的に運動したい	運動部への所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する
男子	5.8	4.7	7.2	18.9	7.1	10.2	5.6	-54.2
女子	-6.0	-3.3	-21.2	-4.7	34.1	8.9	-19.5	-64.7

意識面相関: 振り返りをする中で「できたり、わかったり」する (男子: 5.5, 女子: 7.0) vs 体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている (男子: -68.2, 女子: -53.1)

割合帯: [-7%以上] 弱み, [-7~-3%], [-3~0%], [0~3%], [3~7%], [7%以上] 強み

(3) 令和6年度の方針【学校全体での取組】

令和5年度は、新型コロナウイルスが5類感染症としての扱いに移行したこともあり、学校生活は以前の状況にかなり戻ったように感じた。しかし、年々地球温暖化の影響で夏場の気温が高くなっている現状から、そのような状況下で子どもたちに何をどのような形で学ばせるのかはかなり頭を使う必要があるように感じた。このような、時代や環境の変化、そしてもとより子どもたちの変化に応じた授業内容や工夫をしていく必要がある。

令和6年度は、上記に挙げたことも踏まえ、ICT機器の効果的な使い方をテーマに取り上げて授業づくりをしていくとともに、将来大人になってからも運動にかかわる気持ちを育てていけるような工夫を考えていきたいと思う。